

信頼こそ、
私たちの資産。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント

アムンディ・為替通信

プラスアルファ

情報提供資料



インド

2020年6月

景気
(実質)
GDP

Q1GDP成長率
+3.1%
前年同期比

PMI:購買担当者景気指数

物価

3月インフレ率
+5.9%
前年同月比

コア:食料・燃料・照明を除く(弊社試算)
インフレ目標: +4±2%

金融
政策

4.0%

中銀:インド準備銀行(RBI)

国際
収支

5月貿易収支
-31.5
億ドル

【夏場以降回復】

6月に入って感染者の少ない地域で段階的に経済活動を再開。一方、感染者多い「封じ込めゾーン」は6月末まで封鎖続く。景気は夏場以降緩やかな回復に向かう。

【デフレ色強まる】

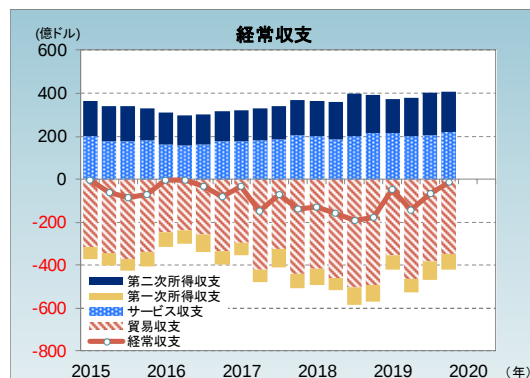
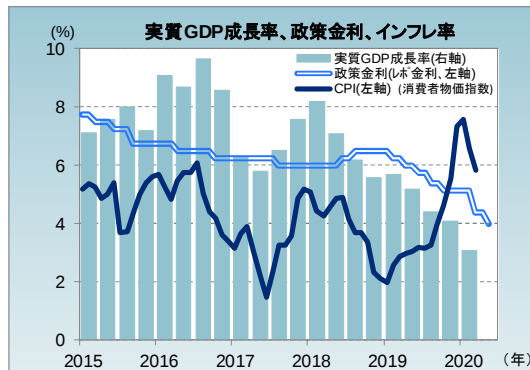
全土封鎖の影響で4、5月CPIは未発表。一部のインフレ統計からは、鈍化方向はほぼ確実な情勢で、今後は需要減少を背景にデフレ色が強まろう。

【さらに緩和強化】

5月22日の緊急金融政策委員会で4.4%から引き下げ。全土封鎖が5月末まで延長されたため、金融緩和をさらに強化。借入の返済猶予を3カ月から6カ月に延長。

【輸出入共に急減】

5月は輸出が前年同月比-36.5%、輸入が同-51.1%で、輸出入共に3カ月連続の2ケタ減。6月から徐々に経済活動の制限を緩和するが、当面は減少傾向続く。



市場動向・見通し

	(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末来 (19年12月末)
対円 (1ルピー=1.426円)		(1.427円) 0.1%	(1.498円) 4.8%	(1.522円) 6.3%
対米ドル (1米ドル=75.49ルピー)		(75.37ルピー) 0.1%	(72.54ルピー) 3.9%	(71.23ルピー) 5.6%

【安値圏でもみ合い】

世界的には経済活動再開による景気回復気運が高まり、新興国通貨も全般的に底堅くなっている。ただし、インドでは感染収束には時間がかかるとの見方が多く、安値圏でもみ合おう。

	(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末来 (19年12月末)
センセックス株価指数 (32,424.10)		(33,717.62) 3.8%	(38,297.29) 15.3%	(41,253.74) 21.4%

【市場心理改善もコロナの感染拡大懸念】

市場心理の改善で、6月に入って以降、もみ合いから強含みへ。コロナ禍に伴う株価急落の半値戻しを達成。ただし、感染拡大ペースの加速が懸念され、上昇余地は縮小しつつある。



出所:各国共Bloombergのデータより、アムンディ・ジャパンが作成

最終ページの「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

信頼こそ、
私たちの資産。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント

アムンディ・為替通信

プラスアルファ

情報提供資料

インドネシア

2020年6月

景気
(実質)
GDP

Q1GDP成長率
+3.0%
前年同期比

PMI:購買担当者景気指数

物価

5月インフレ率
+2.2%
前年同月比

コア:規制価格及び燃料品目除く
インフレ目標: +3.0±1%

金融
政策

4.25%

BI:インドネシア銀行(中央銀行)

国際
収支

5月貿易収支
+20.9
億ドル

[経済活動再開]

5月の製造業PMIは前月比+1.1の28.6。経済活動の制限が6月初めまで続いたため回復は限定的。6月5日以降、段階的に再開され、景況感は徐々に改善へ。

[需要減退でコアは緩やかに低下]

ガソリン価格の下落が続いたため、さらに鈍化。消費財も幅広く伸びが鈍化。コアは前年同月比+2.7%。経済活動制限による需要減退を受け、緩やかに低下。

[依然追加緩和も]

17-18日の定例理事会で3ヵ月ぶりの利下げ(0.25%)を決定。5月も厳しい景気が続いていることに対応。成長見通しを大きく下方修正しており、追加緩和も。

[輸出回復が先行か]

輸出が前年同月比-28.9%、輸入が同-42.2%。6月以降は双方持ち直しが予想されるが、国内の活動が、世界的にはやや遅れ、輸出回復先行で黒字拡大か。

市場動向・見通し

	(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末末 (19年12月末)
対円 (1000ルピア=7.36円)		(7.08円) 3.9%	(7.54円) 2.4%	(7.85円) 6.2%
対米ドル (1米ドル=14,648ルピア)		(15,136ルピア) 3.3%	(14,322ルピア) 2.2%	(13,846ルピア) 5.5%

[新規感染高水準で戻り一服]

市場心理が落ち着いたこととインフレ率に比して政策金利が高いことから、新興国通貨の中では比較的底堅い。経済活動再開は追い風も、新規感染高水準続き、当面は上昇一服へ。

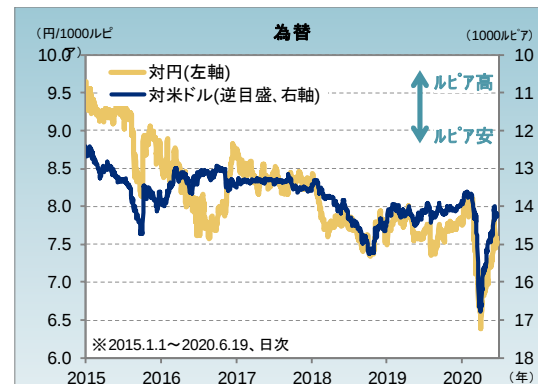
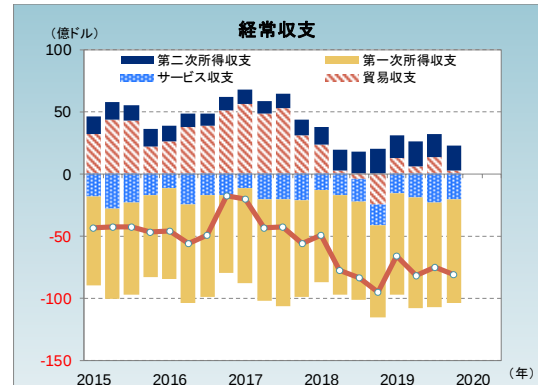
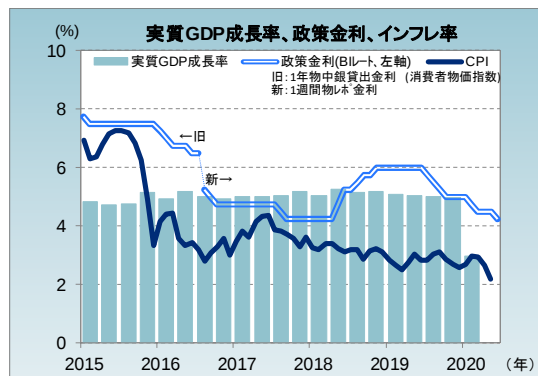
株式
(騰落率)

	(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末末 (19年12月末)
ジャカルタ総合指数 (4,753.61)		(4,716.40) 0.8%	(5,452.70) 12.8%	(6,299.54) 24.5%

[経済再開見極めで様子見]

6月に入って経済活動が一部再開されたものの、新規感染は高水準が続いており、景気の先行きには不透明感残る。予想PER14倍台でほぼ平均的水準も、様子見気運続き、もみ合い。

PER:株価収益率=株価÷1株当たり利益(EPS)(単位:倍)、ここでは向こう12ヵ月ベース



出所:各国共Bloombergのデータより、アムンディ・ジャパンが作成

信頼こそ、
私たちの資産。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント

アムンディ・為替通信

プラスアルファ

情報提供資料



英国

2020年6月

景気
(実質)
GDP

Q1GDP成長率
-1.6%
前年同期比

PMI:購買担当者景気指数

物価

5月インフレ率
+0.5%
前年同月比

コア:食品・エネルギーを除く
インフレ目標: +2%

金融
政策

0.1%

中銀:イングランド銀行(BOE)
MPC:金融政策委員会

国際
収支

4月貿易収支
+3.1
億ポンド

[4-6月期は前期比2ケタマイナスか]

5月のPMI総合は前月比+16.2の30.0。経済活動再開が始まり、6月にかけて改善期待される。しかし、4-6月期は前期比2ケタのマイナス成長率となる公算大。

[コアが3ヵ月連続低下]

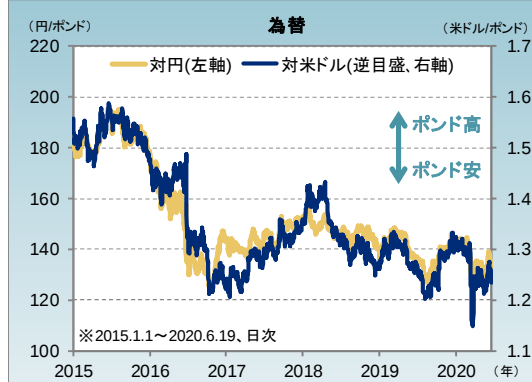
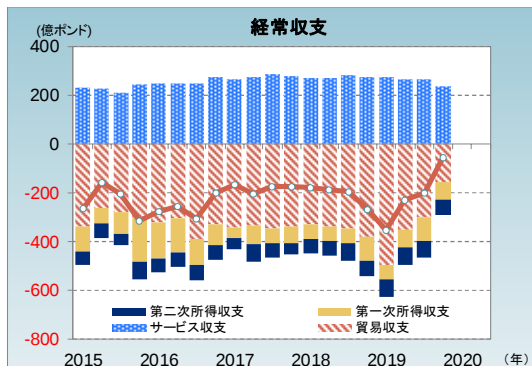
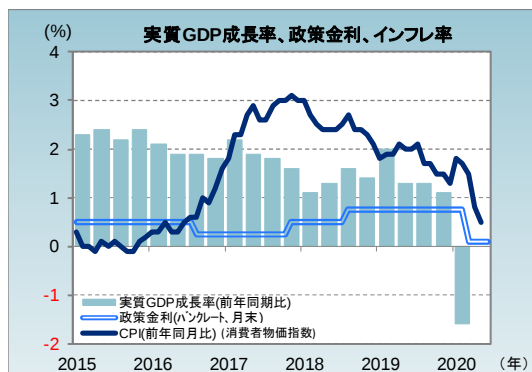
エネルギー下落響く。コアは前年同月比+1.2%で3ヵ月連続低下。経済活動制限直後の、食品以外の消費財中心の下落から変わり、サービス関連の下落目立つ。

[量的緩和をさらに強化]

BOEは6月18日のMPCで、APP(資産購入プログラム)枠を7450億ポンドと1000億ポンド引き上げ。2ケタマイナスの2020年成長率想定を受け、景気下支え目指す。

[6月以降の回復ペースは緩慢]

ロックダウンで貿易急減。輸出が前月比-19.3%、輸入が同-26.2%。5月の低迷続こう。6月は経済活動再開受けて底打ちも、輸出入共に回復ペースは緩慢。



市場動向・見通し

(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末末 (19年12月末)
対円 (1ポンド=133.11円)	(134.94円) 1.4%	(138.63円) 4.0%	(144.13円) 7.6%
対米ドル (1ポンド=1.234米ドル)	(1.259米ドル) 2.0%	(1.281米ドル) 3.7%	(1.326米ドル) 6.9%

[景気、外交で懸念]

感染の収束は大陸欧州に比べて遅れており、経済活動再開の度合い次第で景気の下振れが懸念される。また、EUとの新通商協定交渉も遅れ、両者をにらみながらもみ合う展開を予想。

(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末末 (19年12月末)
FTSE100指数 (6,076.60)	(5,901.21) 3.0%	(6,580.61) 7.7%	(7,542.44) 19.4%

[楽観心理修正も依然割高感]

主要国でのコロナ感染再拡大への懸念が台頭し、楽観一辺倒の市場心理は修正され、もみ合い。予想PERは16.4倍に上昇し、過去1年平均13.0倍に比べて割高感あり、上値重い展開。

PER: 株価収益率=株価÷1株当たり利益(EPS)(単位:倍)、ここでは向こう12ヵ月ベース

出所: 各国共Bloombergのデータより、アムンディ・ジャパンが作成

最終ページの「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

信頼こそ、
私たちの資産。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント

アムンディ・為替通信

プラスアルファ

情報提供資料



南アフリカ

2020年6月

景気
(実質)
GDP

Q4GDP成長率
-0.5%
前年同期比

PMI:購買担当者景気指数
ABSA:南ア合同銀行

物価

3月インフレ率
+4.1%
前年同月比

コア:食品・エネルギーを除く
インフレ目標: +3~6%

金融
政策

3.75%

中銀:南アフリカ準備銀行(SARB)

国際
収支

4月貿易収支
-350.2
億ランド

[夏場以降景気底打ち]

5月のABSA-PMI企業活動指数が4月の5.1から43.2に急騰。5月からロックダウンを一部緩和、6月からはさらに広範に緩和され、夏場以降、景気は底打ちから回復へ。

[低下方向]

4、5月の発表を1ヵ月延期。景況感指標、自動車販売動向などから、インフレ率は景気後退で低下していると推察される。

[大幅マイナス成長で利下げ継続か]

5月19-21日の金融政策委員会で0.5%利下げ。年内0.5%追加利下げも示唆。中銀は2020年の実質GDP成長率を-7.0%と予想、物価見通しも下方修正。

[貴金属輸出が反動減]

4月は輸出が前年同月比-48.8%、輸入が同-17.9%。貿易赤字は過去最大。鉱業製品、貴金属、金属製品などの鉱物関連の輸出が急減。大幅増の3月の反動か。

市場動向・見通し

	(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末末 (19年12月末)
対円 (1ランド=6.15円)		(5.78円) 6.3%	(6.77円) 9.3%	(7.76円) 20.8%
対米ドル (1米ドル=17.55ランド)		(18.53ランド) 5.3%	(15.67ランド) 12.0%	(14.00ランド) 25.3%

[コロナ第2波懸念vs景気回復期待]

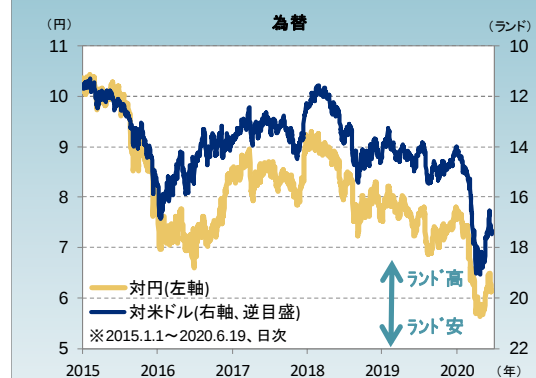
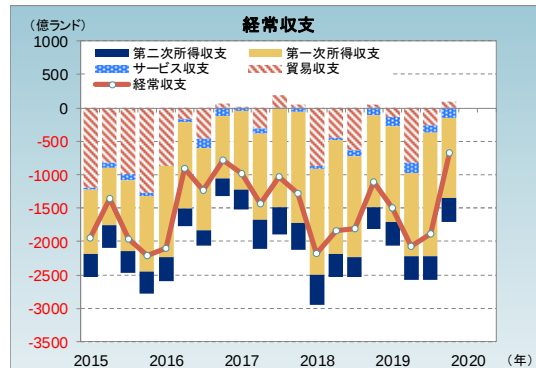
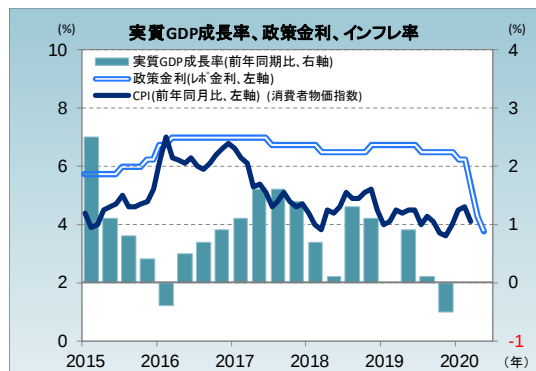
経済活動再開でリスク環境改善し、対円で6円台を回復したが、先進国でのコロナの感染第2波への懸念などから上値が重くなっている。当面は景気回復期待とのせめぎ合いか。

	(20年5月末)	1カ月間 (20年4月末)	3カ月間 (20年2月末)	昨年末末 (19年12月末)
TOP40株価指数 (46,544.79)		(46,348.26) 0.4%	(45,851.76) 1.5%	(50,816.05) 8.4%

[割高感それほどない]

6月に入って50000ポイントを一時回復し、コロナ禍による急落をほぼ取り戻している。予想PERは12.8倍と、過去1年平均の12.1倍と比べても割高感は大きくなく、相対的に投資妙味ある。

PER:株価収益率=株価÷1株当たり利益(EPS)(単位:倍)、ここでは向こう12ヵ月ベース



出所:各図共Bloombergのデータより、アムンディ・ジャパンが作成

信頼こそ、
私たちの資産。

Amundi
ASSET MANAGEMENT
アムンディ アセットマネジメント

アムンディ・為替通信

プラスアルファ

情報提供資料



中国

2020年6月

景気
(実質)
GDP

Q1 GDP成長率
-6.8%
前年同期比

PMI: 購買担当者景気指数
財新: 中国デイトの名称

物価

5月インフレ率
+2.4%
前年同月比

コア: 食品・エネルギーを除く
インフレ目標: +3%

金融
政策

3.85%

中銀: 中国人民銀行(PBOC)
政策金利: 1年物LPR (最優貸出金利)

国際
収支

5月貿易収支
+629
億ドル

注: 1-2月累計

市場動向・見通し

(オフショア市場)

為替
(騰落率)

(20年5月末)	1ヵ月間 (20年4月末)	3ヵ月間 (20年2月末)	昨年末来 (19年12月末)
対円 (1円=15.12円)	(15.13円) 0.1%	(15.49円) 2.4%	(15.60円) 3.1%
対米ドル (1米ドル=7.133円)	(7.082円) 0.7%	(6.979円) 2.2%	(6.963円) 2.4%

[様子見傾向]

6月に入ってから、景気の先行き楽観を背景に元高円安進むも、コロナの第2波が懸念されて上昇分吐き出しもみ合いに。国内での感染再拡大もあり、当面は様子見の展開か。

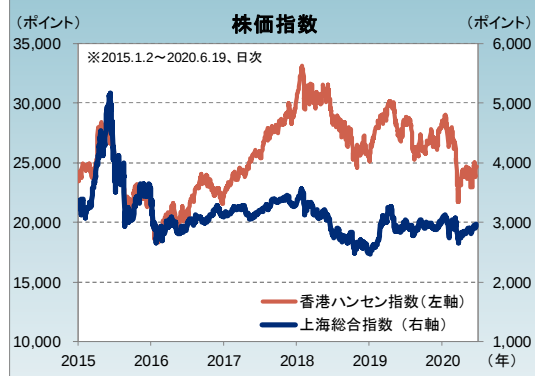
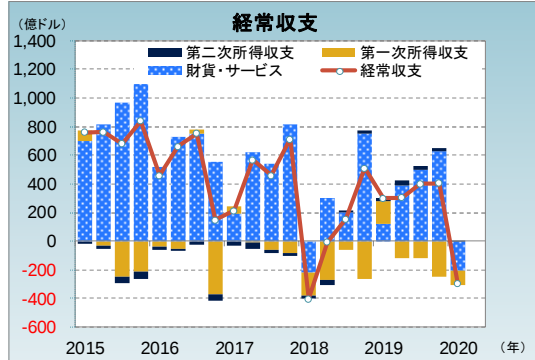
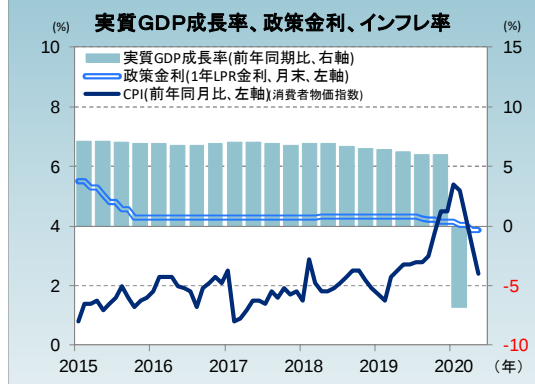
株式
(騰落率)

(20年5月末)	1ヵ月間 (20年4月末)	3ヵ月間 (20年2月末)	昨年末来 (19年12月末)
上海総合指数 (2,852.351)	(2,860.082) 0.3%	(2,880.304) 1.0%	(3,050.124) 6.5%
香港ハンセン指数 (22,961.47)	(24,643.59) 6.8%	(26,129.93) 12.1%	(28,189.75) 18.5%

[戻り歩調も上値は重い]

世界的な景気回復期待で上海、香港共に戻り歩調になっているものの動きは鈍い。予想PERはそれぞれ11.4倍、10.5倍で割高感はないものの、米国との対立等が懸念され上値は重い。

PER: 株価収益率=株価÷1株当たり利益(EPS) (単位: 倍)、ここでは向こう12ヵ月ベース



出所: 各国共Bloombergのデータより、アムンディ・ジャパンが作成

最終ページの「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

本資料のご利用に当たっての注意事項等

本資料は、アムンディ・ジャパン株式会社が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものです。

本資料は、本資料に含まれるいかなる金融商品の販売や媒介を意図、または購入あるいは売却を勧誘する目的で作成されたものではありません。

本資料は法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に次の手数料・費用をご負担いただきます。その料率は投資信託によって異なります。さらに、下記以外の手数料・費用をご負担いただく場合、一部の手数料・費用をご負担いただかない場合もあります。詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)・契約締結前交付書面をご覧ください。または、販売会社へお問い合わせください(カッコ内には、アムンディ・ジャパン株式会社が設定・運用する公募投資信託のうち、最も高い料率を記載しています。)

投資信託の購入時:購入時手数料[最高料率3.85%(税込)]

投資信託の換金時:信託財産留保額[最高料率0.3%]

投資信託の保有時:運用管理費用(信託報酬)[実質最高料率2.254%(税込)]、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等を間接的にご負担いただきます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の手数料・費用が掛かることがあります。

※上記の費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することはできません。

本資料は、特定のお客様の特定の投資目的および財務状況または要望を考慮して作成されたものではありません。

本資料に記載した弊社の見通し、予測、意見等(以下、見通し等)は、本資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、見通し等や過去の運用実績を含むいかなる内容も、将来の投資収益等を示唆または保証するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性について保証するものではありません。

本資料に記載されている内容は、全て本資料作成日以前のものであり、今後予告なしに変更される可能性があります。

弊社は、本資料に含まれる情報から生じるいかなる責務(直接的、間接的を問わず)を負うものではありません。

弊社の許可なく、本資料を複製または再配布することはできません。

リスクについて

- ・金融商品等の投資にあたっては、市場動向等、また投資信託等へ投資する場合にはその裏づけとなっている金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・金融商品等の発行者または保証会社等の業務や財産の状況に変化が生じた場合や、裏付け資産の発行者または保証会社の業務や財産の状況に変化が生じた場合、金融商品等の価格が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・デリバティブ取引においては、預託した証拠金を担保として、証拠金を上回る多額の取引を行うことがありますので、相場の変動の要因等により生じた損失の額が証拠金の額を上回る(元本超過損が生じる)ことがあります。

投資した資産価値の減少を含むリスクは、投資信託を購入のお客様が負うことになります。

投資信託は預金、保険ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関を通じて購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象とはなりません。

お申込みの際は、投資信託説明書(交付目論見書)・目論見書補完書面等をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえご自身でご判断ください。

販売会社店頭へ投資信託説明書(交付目論見書)をご用意しております。

投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフの適用はありません。

アムンディ・ジャパン株式会社
金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会